



CREATIVE COMMUNE

BABY

THE COFFEE

BREW

CLUB

2025

No. 4

Company newsletter



BABY THE COFFEE BREW CLUB 会員さんインタビュー

第二弾：紅茶王子さん（ティーデザイナー）

○紅茶専門店を始めるきっかけとなった神戸でのお話

埼玉生まれ埼玉育ちの紅茶王子さん。

大学時代に過ごした神戸では、埼玉ではあまり感じることのなかった「洋」の文化に触れる機会が多くありました。

街並みや建物、食べ物に至るまでどこか洗練された雰囲気があり、飲食店では紅茶の種類もとても豊富でした。もともと紅茶は好きでしたが、そこで個性豊かな紅茶と出会うことが増え、次第に紅茶の奥深い世界に引き込まれていきました。

その後、カフェの店長を務める経験も重ね、さらに紅茶への想いが強くなりました。そして、自分の地元である埼玉にも、そんな紅茶の魅力をもっと広めたいという思いから、紅茶専門店をオープンしました。お店を開いた理由はとてもシンプルです。紅茶を淹れる時間も、それを飲んでくださった方が「美味しい」と喜んでくれる瞬間も、とても楽しかったから。



○一人一人に合わせた紅茶作りの際に大切にしていること



もちろん、お好みの味をお聞きすることも大切ですが、よく知っている方なら「今ちょっと忙しそうだな」といったその時の様子に合わせて紅茶を選ぶこともあります。初めてお会いする方なら、第一印象やその方の雰囲気をも自分なりに感じ取り、

想像しながら紅茶をお淹れしています。紅茶を通じて、その方とのコミュニケーションを楽しんでいる感覚ですね。

○紅茶王子にとってクリエイティブとは/クリエイティブが生まれる瞬間とは

クリエイティブとは、自分を表現することでもありますが、人と人との関わりの中で生まれるものだと思っています。最近ではAIの発展によって、人とAIの間にも新しいクリエイティブが生まれることがあります。一見、一人で生み出しているように見えることも、実は誰かとの繋がりや刺激があってこそなのかなと感じます。

職人氣質な人やクリエイティブな人は、どこか一人で黙々と取り組んでいるイメージがあるかもしれませんが、実際には常に誰かとの関わりがあって、その根底には「人が好き」という気持ちがあるのではないのでしょうか。

○BCBCのオリジナルブレンドティーを作った時のお話

「普通じゃないものがいい」というオーダーをいただいた時、言葉自体は抽象的でしたが、不思議とその意図はすごく伝わってきました。

試作品を作る際も、BCBCのみなさんはとても情熱的で、ただプロにお任せするのではなく、「もう少しこうしたい！」という明確なイメージを持っていらっしゃいました。

だからこそ、その理想にどうやったら近づけるかを考えながら、一緒に作り上げていきました。味が完成した後も、どうすればその風味を最大限に引き出せるかをお伝えするために、いくつかの淹れ方を提案しました。

普段おすすめてしている淹れ方よりも少し濃いめに仕上げる方法を試したりと、細かい部分にもBCBCのみなさんならではのこだわりを感じました。その情熱に驚かされると同時に、とても刺激を受けたことを覚えています。

一緒に作り上げる楽しさを改めて実感した経験でした。



○今後挑戦してみたいことは？/BCBCでやってみたいことは？



以前、タイでフランチャイズを経験した時に、世界に出る楽しさを実感しました。それ以来、もっと世界に挑戦してみたいという気持ちがあります。ただ、お店を出すといった具体的なかたちはまだ決まっていません。

でも、自分が淹れた紅茶を、世界中のさまざまな世代や国籍の人たちに味わってもらえるようなことをしてみたいと思っています。国や文化を超えて、紅茶を通じてつながる機会をつくれたら素敵だなと考えています。

BCBCでやってみたいことは、「茶室」のような、一度にひとりだけが入れる小さな空間を作ることです。

そこに、忙しい方にふらっと立ち寄ってもらい、紅茶を飲みながら少しだけリラックスして、

また仕事や日常に戻っていく——そんな特別なひとときを提供できたらと思っています。先日BCBCで企画を行った際、感度の高い方々が多く集まっていることに気づきました。その場の雰囲気や人との交流がとても楽しく、だからこそ、いつかそういった「茶室イベント」を実現できたらいいなと思っています。

○今の若い世代の方たちへのメッセージは？

今の若い世代の方たちは、本当に真面目で、何かしら目的を持って行動している人が多いと感じます。それは素晴らしいことですが、もっと自由に遊んでもいいんじゃないかなとも思います。大人になってからお金を使って楽しむのももちろん良いけれど、若いときにしかできない遊び方や経験があるはずですよ。だからこそ、息抜きしながら自分の世界を広げて行ってほしいですね。みなさんは、自分が何をしているのかをしっかりと言葉にできる人が多くて、本当にすごいなと感心する反面、「ちゃんとリラックスできているのかな？」と少し心配になることもあります。僕自身、どんな時でも「常に新人だ」という気持ちで生きているので、むしろ皆さんから学ぶこともたくさんあると思っています。ぜひ、仲良くしてください。(笑)



紅茶王子さん、ありがとうございました。

皆さまもぜひ彼の紅茶を楽しんでください！

BCBCの定番ランチ 身体整うおばんざい kikaki編

●はじめに

皆さんおはこんばんにちは、Sanaです。BCBCではランチタイムに身体が整うおばんざい定食を提供しています。日々、ご利用していただく会員の皆様に素敵なアイデアやクリエイションの種が生まれる環境をつくりたい。せっかくならば、皆様の健康面までサポートしたいという想いでメニューにいたしました。

そんなおばんざい定食ですが、作り手さんが随時変わっており、その方々のご紹介をこの社内報にてさせていただいております。

クリエイティブラウンジとして、“食”というクリエイションを通して、選りすぐりの料理人をお願いし、会員様に FOOD CREATIONと出会うきっかけ作りをさせていただいております。

心のこもった野菜が豊富に使われたこだわりのラインナップをぜひお楽しみください。

また、当店ではおばんざいと、お味噌汁と炊き立てのご飯、当店お手製のちりめんじゃこと共に、定食として提供しております。さて、そんなおばんざいをどんな方がどのような想いで作っているのかインタビューしに行きました。第二回目はkikakiさんです。

〈おばんざいは〉

京都の日常のお惣菜や常日頃口にする料理を指します。漢字では「お番菜」と書きますが、「番」は「常のもの」を表すことから、常の惣菜や常のおかずという意味になります。



●kikakiの菊池さん

浅草にあるオレンジットをメインにしたスイーツ屋さん、kikaki。農家さん直送のフルーツなど、国産食材にこだわり、スイーツ以外にも甘酒、ホットチョコレートなど美味しいドリンクも提供しているそんな素敵なお店で代表兼パテシエをされているのが、菊池さん。しかし料理もされており、BCBCに美味しいおばんざいを届けてくださっています。今回はkikakiさんの店舗にて美味しいホットチョコレートをいただきながら、菊池さんのおばんざい作りやお菓子作りなどに対する想いを聞いてみました。



●どんな想いで料理やお菓子作りをしているのか

廃棄されてしまう果物や野菜が多く、お惣菜や生菓子などは日持ちが浅くどうしても廃棄が出てしまうが、そこをなんとか長い期間美味しく食べれないかという想いがある。スイーツ作りに関しては、「甘すぎないものを作ろう」という考えを持つお店が少ない。なので、自分がフルーツの甘みや酸味など、素材の味を感じてもらえるものを作ろうという想いもある。また、菊池さんにとってご飯は1人で食べるものではなく、みんなで食べるものなので、みんなで食卓を囲んで幸せをシェアできるその瞬間を作り出すためにものづくりをしているという想いも。

● 5種類どうやって決めているのか

kikakiのおばんざいは4種類のおばんざいに1種類のスイーツがあるのが特徴。それらにはなるべく、季節のものを使いたく、おばんざいにもなるべく果物を取り入れたい。そして、日持ちが心配で確実に大丈夫なものを作るので、酢の物や低温調理で日持ちするものを採用している。

また、スーパーに行った時に買おうと思っていた食材が高くて断念して、安くて旬のものを選ぶことも。

● レシピのインスピレーションはどこら？

昔から賄いで低温調理を作ることがあったのでそこからおばんざいのレシピがきている。例えば、菊池さんが作るおばんざいのラインナップの中に美味しいチャーシューや鶏ハムなどがありますが、それらもまた低温調理。他にも、作り置き系のサイトを調べたり、chat GPTに聞いたりしている。いい食材に囲まれていたいという思いが食材選びに良い影響を与えている。

● kikakiの好きなところ

果物や小麦、米粉を農家さんから直送してもらったりしているところ。また、その割合が年々ましているところ。



●料理・お菓子作りを始めたキッカケは？

小学生の時に旅行に行った際、美味しいと思ったものを家で再現して作ったり、外で食べた焼き菓子を「もっと美味しく作れるな」と思って自分で作ってみたりしていた。よく覚えているのは、中学生の頃に沖縄のスープカレーが美味しかったから、家に帰って野菜を一日かけて煮込んで作ったりしていた。そして、廃棄されてしまう果物や野菜をちゃんと使えたら無駄なく美味しく健康的にご飯が食べれるなと思い、それを流通するためにもものづくりをしたいと思ったのがキッカケ。みんなでご飯を食べる時間も好きなのでご飯会も開催していた。キッシュや土鍋などを作ってシェアキッチンなどを借りて自分が1人で作り、集まった人に振る舞っていた。また、お菓子は食べるのも好きだからもあるが、日持ちもするから、自分のやりたい”廃棄を減らす”というスタイルと合っていると思った。

●最後に

さて、今回はパティシエでもある菊池さんにおばんざい作りのインタビューをしました。いかがだったでしょうか？食材や調理方法にこだわっている菊池さんだからこそのお話が聞けたと思います。こういった作り手の想いを直接聞ける機会はなかなかないのでごく興味深いですし、普段食べているおばんざいへの見方もより変わってきます。みなさんもkikakiさんの店舗にぜひ行ってみてくださいね。そして、BCBCのおばんざいをまだ食べたことがない方はぜひお試しください。



ギャラリーハイライト

～作家さんのお気に入り～



「ギャラリーハイライト」
文章担当：グレイ賢人

HARAUKU DREAMS STREET DREAMS MAGAZINE

10/29-11/06日



こちらはStreet DreamsメンバーTakeshiさん
チョイスの好きな写真になります。

とても早く騒がしい流れの中、原宿の街とそれを俯瞰して冷静に目で見つめる彼女。この街での自分の在り方と自己表現を言葉でなく魅せ方によって内にある強い意志が伝わるような、そんな原宿の1つのカルチャーを物語る一枚。

- Takeshi Hayakawa

Takeshi Hayakawa(@22phottt)
@streetdreamsmagazine

スタッフのお気に入り



スケボー少年達が夜遅く路地に集まっている場面。中にはポーズを取っている人や、立ち話をしていたり、笑い合ったり、スケボーを持ち上げたり...ガヤガヤしている様子がまるで実際動いているみたいです。青春をものすごく感じます。また白黒でタイムレスな雰囲気が出ているので、平成中期のヒップホップ感があって好きです。

VIVID ParOllel x GAAAT

11/8-13日



「Unicorn」

お馴染みのGAAAT ギャラリー金光さん個人のお気に入りです。今回の展示の為にParOllelさんが描き下ろして下さった作品です。日本っぽさを強調し古典にピッタリです。馬と目の部分がメタルになっており綺麗に反射するのがポイントです。



「Arcade」

スタッフのお気に入り

クレーンゲームをコントロールする本人は緊張と興奮の様子。隣で見守る友達はずでに勝利の表情。細かいディテールとポップな色使いでゲームセンターで稀に起きる奇跡をリアルに表していて良いですね。

ギャラリーハイライト

(続)

オートマティック

サッカラーニ愛

2024, 12/1~12/11



「Automatic 1」

サッカラーニさんのお気に入りの一つ。元々縞々のデザインを描いていたキャンバスの上に雲をつけたし始め、近くで見たらうっすらと雲の向こう側にデザインが見えます。結果真ん中の残ったデザインは人によって解釈が違い面白いものが残ります。中にはエイプ・猿の顔が見えるという方もいるそうです。



「2024.No.44」

スタッフのお気に入り

こちらの作品は写真を通してでは無く、実際目で見ないと見えない紫色の光った砂のような分子がパラパラと広がっています。宇宙を思い出します。

Metal Canvas Collection Reflection on vol.1-4

GAAAT

1/16-22



こちらはGAAATの金光さんの好みの作品。メタルキャンバスアートならではのぎほうの透過してるように見える技術がテーブルに写っています。角度によってテーブルの下のライトが変わり、立体感と遠近感が上手く出ています。

「あったかくてしあわせだね」



「てんしのゆめ」

スタッフのお気に入り

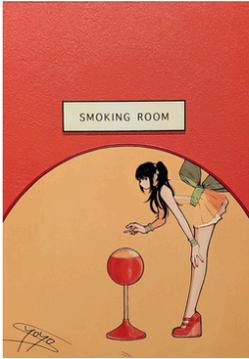
元々ある天使の目的という「夢」とタイトルを解釈していましたが、絵を見るほどある人が見た天使の夢だと思いました。上から降りる光、それを囲む和風な雲の渦、そして天使の祈りが、地上と天が繋がる瞬間の神秘さを感じます。

ギャラリーハイライト

(続)

Metal Canvas Collection Reflection on vol. 5

GAAAT
1/23-29日



「Life is Short.」

GAAATギャラリーの井上さんによると、こちらの Syoyoさんの作品は洋服と背景をくっつける絵柄が多く、塗料の質感がザラザラしてるスタイルです。硬いインクが何層も重ねてるレトロでポップなサイン的なデザインであり、キャラクターは小さめに書かれているので普段家に飾り安いところが良いですね。



「MAGIC」

スタッフのお気に入り

この絵は良く見ないと気づかないデザインが多く隠れています。例えば、女の子が手に持つ十字架だけではなく、目の光、目元のデザインも十字架であったり、後ろに青い字でMAGICと書いてあったり。平凡に見える毎日の中、この絵のようにより集中しないと気づくことができない神秘があるのを思い出しますね。

あこがれ

木澄玲生 x GAAAT
2/6-12日



GAAATギャラリーの金光さんのお気に入り。キャラクターについている宝石やリボンを少し透明に見せる技術が綺麗に見える作品です。

「あこがれ出版記念展 Metal Canvas Art No. 5」



「あこがれ出版記念展 Metal Canvas Art No. 8」

スタッフのお気に入り

こちらのキャラクターはウサギ型に切られたリングをイメージしたデザインです。昔昼食で作ってくれた母のうさぎリングが懐かしくなります。

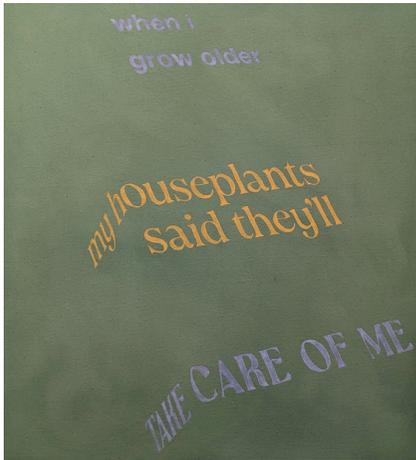
ギャラリーハイライト

(続)

she told me I'm sad and lonely in a whimsical and silly kind of way

Michael Rikio Ming Hee Ho

2/22-3/5日



日本語タイトル：「大きくなったらね、と家の植物が言った。私のこと、ちゃんと世話するよって」

フォントアーティストのマイケルさんはハワイからカルフォルニアへUCLAに通う為移住しました。

アメリカンなブラックジョークが普段の作品に含まれていますが、

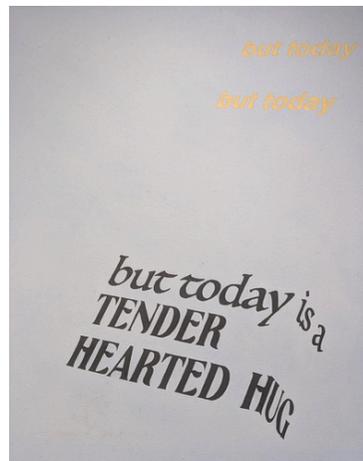
今回は少し小さめな作品を描く同時にポジティブなメッセージを込めているそうです。

台湾系アメリカ人として育った為、アジアンな家族ならではの親孝行を強調した育ちをし、

よく家の植物に水をやるように言われていたので、この作品はその親孝行さと植物の管理を掛けた文章です。

真ん中の黄色で書かれた「と家の植物が言った」以外を読むと「私を老後管理してくれ」になります。

「when I grow older my houseplants said they'll TAKE CARE OF ME」



スタッフのお気に入り

日本語タイトル：でも今日は、でも今日は、でも今日は優しく抱きしめてくれる。

いろいろ悩みを背負って生きている人が多く、毎日を歩むのが嫌になってしまう人もいます。そんな日々の中、どんなに冷たくなってしまった人でも

「今日は違う」と思い、もう一度頑張る第一歩になると思います。

そんな気持ちが感じますね。

「but today but today but today is a TENDER HEARTED HUG」